

PRINCIPALITY OF
ZEON

© 創通・サンライズ



MS-14A GELGOOG

PRINCIPALITY OF ZEON MASS PRODUCTIVE MOBILE SUIT



1/100 scale MASTER GRADE MS-14A GELGOOG Ver.2.0



ジオン公国軍
汎用モビルスーツ
MS-14A 量産型ゲルググ Ver.2.0
1/100スケール マスターグレードモデル

BAN
DAI

ジオン公国MS開発史

ザクの汎用性が行き着く先

ゲルググは、ザクに代わるジオン公国軍の新たな主力MS（モビルスーツ）として開発された。一年戦争の期間中に量産されたMSの中で、MS-14A ゲルググは「最高の“完成度”を持つ機体である」と評価されている。

U.C.0079年に勃発した「一年戦争」の末期に実戦投入されたゲルググは、この期間に量産されたMSの中で、最も優秀な機体であると言われている。地球連邦軍に先んじてMSの開発に成功した公国軍が、連邦軍の「RX-78 ガンダム」を超えるべく、その威信を賭けて開発したのがゲルググなのである。この機体は、それまでに蓄積されたMS開発に関連するノウハウの全てを投入し、ビーム兵器の標準装備という新たな難関をクリアしている。生産性をも含めたトータルな意味での「工業製品」としてゲルググを捉えれば、ガンダムのように単機での大気圏突入こそできないものの、実質的には凌駕していたと言っても過言ではない。攻守共にバランスのとれた設計と、ザクを上回る汎用性の高さに加え、オプションの換装も容易で整備性も良好であり、ほぼ無改造で重力下での稼働も可能であった。これほどのスペックと生産性を持ちながら、実戦に投入されたのが戦争末期であったため、戦局に与えた影響は微々たるものだった。また、戦闘の長期化に伴うベテランパイロットの喪失によって、学徒動員兵など練度の低いパイロットを搭乗させざるを得なかったジオン公国の人的資源の不足など、運用面における状況は必ずしも万全なものではなかったため、基本性能ではジムを大きく上回るにも関わらず、大きな戦果を挙げた事はできなかったとされている。無論、当時の情勢を鑑みれば、MSの性能がジオン公国の敗北を覆す要素とはなり難いが、逆に言えば、だからこそ、「優秀なパイロットのもとに適正に配備されていれば……」あるいは「多くのベテランパイロットを喪失していなければ……」と思わせてしまう機体である事は否定できない。「あと一ヶ月配備が早ければ、歴史を塗り替えていただろう」というのは、むしろ、連邦サイドからの評価なのである。

ゲルググの開発・量産は国を上げた“合同事業”であった

ゲルググは、言うまでもなく連邦軍が開発した「ガンダム」を強く意識した機体である。そのため、ビーム兵器の搭載が携行が必須とされた。それを実現するため、公国軍は自国の企業間の垣根を取り払い、軍自らが開発を主導したのであった。

公国軍において、ザクの後継機となる次期主力MSを開発する計画そのものは、一年戦争のかなり早い時期から存在していた。しかし、高度な汎用性の獲得やビーム兵器の開発などが遅れたため、実戦に投入されたのは一年戦争末期となった。実際には、一年戦争勃発以前から戦路上の選択肢として「地球侵襲」が想定されていたため、地球環境などに適応・特化された「局地戦用MS」の開発や、ザクの量産そのものが優先されていた。つまり、「次世代機開発」の優先順位はさほど高くはなく、戦争遂行そのものが優先されていたのである。次期主力MS候補の計画上のコードナンバーはMS-11で、機体の運動性の向上を主眼として検討されており、その設計案に基づいた試作機がテストベッドとしていくつか建造されていた。これらの機体は、それなりの予測値をはき出した上で対MS戦闘を想定していたが、「ガンダム」の出現によって、その予測値は抜本的に見直されることとなった。すなわち、ガンダムの性能は公国軍の想定をはるかに上回っていたのである。そのため、すでに生産が開始されていた機体を除く新型MSの開発計画のいくつかは統合され、武装も含めた総合性能の向上が計られることとなった。この時期の混乱もゲルググの開発が遅れた要因のひとつである。公国軍にとって「ガンダム」が脅威であったのは、この機体を持つ圧倒的な機動性と強靱な装甲に加え、南極条約の制約下において最強の兵器であるビーム砲=メガ粒子砲を携行し、戦艦並みの破壊力を併せ持っていたためであった。MSの機動性は、本来に「足の遅い」戦艦などに対抗するためのものであり、巨大な設備を必要とするビーム砲のMSへの実装=小型化はあくまで目標のひとつに過ぎなかった。公国軍においては、主に冷却機構などの問題からビーム兵器の小型化が難航しており、水陸両用MSが水冷式を採用することでようやく目処が立ったという段階にあった。ところが、連邦軍が開発したMSは、小型高出力のビーム砲=ビーム・ライフルを標準武装としていた。MSにビーム兵器を持たせる事に成功した連邦軍のアドバンテージは、それほど破格のものだったのである。無論、公国軍もMSへのビーム兵器搭載を懸念しており、戦争中期には水陸両用MSに実装している。また、戦争後期に開発された機体のほとんどは、MSであろうとMA(モビルアーマー)であろうと、なんらかのビーム兵器の搭載が携行を実現している。ある意味でMAは、ビーム兵器を運用するための兵器であったという側面もあるのである。MSとビーム砲の融合は、ジオン公国に於いて最も喫緊の課題となったのである。かくして公国軍の技術陣は、その矜持として、ビーム砲の実装のみならず、「ガンダムを超える“MS”として“ゲルググ”を完成させなければならなかった」のである。

MS-06F

MS-14A ゲルググ

ゲルググは、ザクに代わる新たなスタンダード=次期主力MSとして誕生した。公国軍が生み出したMSは、ゲルググをもって完成したと言っても過言ではない。

MS-14 ゲルググが一年戦争末期における傑作機であることを否定する人はいないだろう。ゲルググの総合性能は高く評価され、次期主力機選定時に競合したYMS-15 ギャンに大差をつけて採用された。これはゲルググがエネルギーCAPを利用したビーム兵器の小型化に成功していたという事実によるものであるとされている。ギャンは、ビーム・サーベルこそ装備していたものの、ビーム・ライフルは装備しておらず、連邦製MSの対抗兵器としての要件を満たしていないと判断されたのである。当時、次期主力MSに求められていたのは、対MS(白兵戦)能力そのものより、対艦戦能力であり、重火器の使用が可能なゲルググに軍配が上がったのは自明の事であった。とはいえ、ゲルググとギャンのコンペティションは、MS開発初期のような厳密なものではなく、ゲルググの採用そのものは事前にほぼ確定しており、ある種のセレモニーとして執り行われたに過ぎなかったと言う説もある。

MS-14 ゲルググの開発ベースとなった機体は、MS-06R-2 高機動型ザクや、06系の最終型とされるMS-06R-3などであったが、ゲルググはそれらの開発に従事していた技術者たちを糾合して開発された機体であり、公国軍のMS開発担当官が直接指揮を執って開発に当たっていた。MS-14の基本的なアビオニクスはZIEON社のもだが、装備されるスラスター類にはZIMMAD社の技術が援用されており、MS用の機体開発にいたMIP社なども、ビーム・ライフル開発の際にMS開発局に編入され、同系統の何機種かの機体をOEM生産している。さらに、各部品の調達に都合によって、各メーカーは独自のライセンス生産を行うようになっていった。つまり、メーカー間で生産技術の均等化が進んだ結果、得意分野ごとに生産をシェアできるようにになっていたのである。ゲルググの設計自体、各部位を独立した構造としていたため、生産をブロックごとに行う事が可能だった。だからこそ、生産可能なユニットは先行して供給することが可能となり、短期間で本格的な量産にこぎ着けるまでに至ったのである。また、この機体の完成は、公国軍のMS開発コンセプトの転換をも体現している。ゲルググはザクのように汎用性を重視した機体ではあったが、ビーム・ライフルという大火力の兵器を持った事で、実際の運用法がガンダムに近い、より連邦的なものとなっていたのである。特に、同時期に開発されたMS-14C ゲルググキャノンとの連携など、RXシリーズのガンダムとガンキャノンのコンビネーションに酷似した戦術で運用される事が多かったと言われている。

また、ゲルググはザクと同じく、それ以上の汎用性を発揮するよう設計されていたため、最小限のオプションで多様な戦術に対応できた。基本的にはノンオプションで最高水準の性能を発揮するが、腕部と背部には、ある程度規格化されたオプションポートが実装されている。腕部には、地上への投入やコロニー内での機動性向上などを目的とする補助推進ユニットや、砲撃戦に対応したミサイルランチャー、機関砲などが用いられていた。また、膨大な初期加速を必要とする一撃離脱の作戦などに対応するための高機動型バックパックに加え、開発が遅れていたビーム・ライフルの代替武装として、水陸両用MSのビームデバイスを流用したビーム・キャノンバックなど、背部パネルごとと換装することができた。例えばザク系の機体では、この程度の変更でも内装部品の交換や煩雑な微調整が必要だったが、ゲルググはほとんど無改造でこれらのオプションを脱着し、その上で十分に稼働することが出来たのである。ちなみに、開発が戦争末期であったにも関わらず、ゲルググには、A、B、C、S以外にもバリエーションが存在する。これは、基本設計として各部パーツやモジュールを分散して生産する事が可能だったためだとされている。例えば、元々は、ゲルググとのコンペティションで敗れたギャン系を流用していた工場など、そのモジュールを組み込んだ上で、一部完成していたMS-17用の生産ラインを流用して建造されたゲルググなども存在するとされている。そして、終戦以降も、それらの開発拠点を継承した連邦軍で、あるいは公国軍残党の手によって、ゲルググの系譜は発展し続けていったのである。

△ 注意

必ずお読みください

- この商品の対象年齢は15才以上です。〈鋭い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。〉
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

※このキットの組み立てには+（プラス）ドライバーを使いますので別にご用意ください。

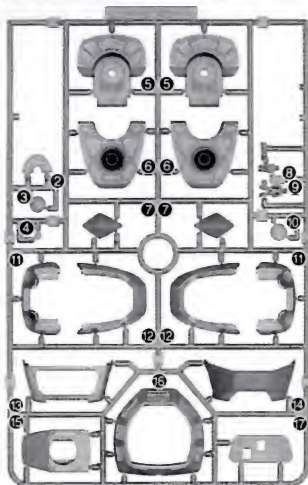
〈組み立てる時の注意〉

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気を付けて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

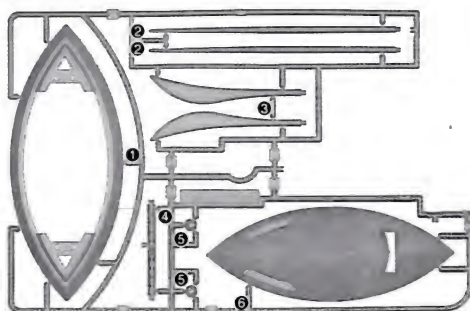
パーツリスト

（×印は使用しないパーツです。）

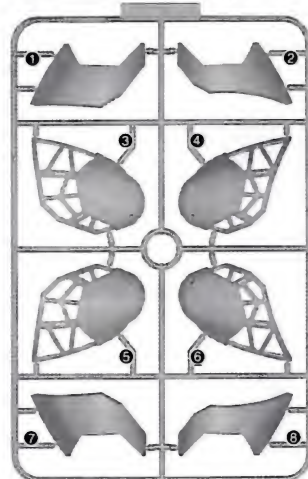
Aパーツ（スチロール樹脂：PS）



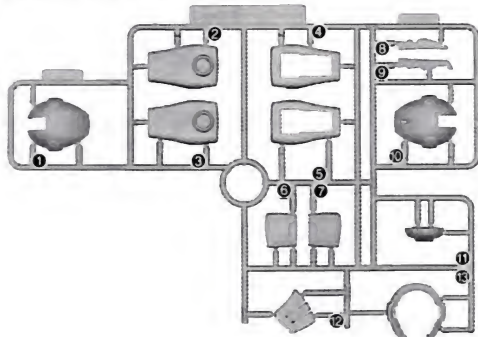
Bパーツ（スチロール樹脂：PS）



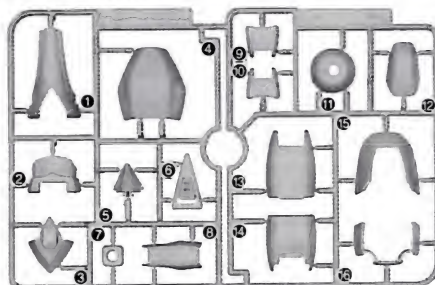
Cパーツ（スチロール樹脂：PS）



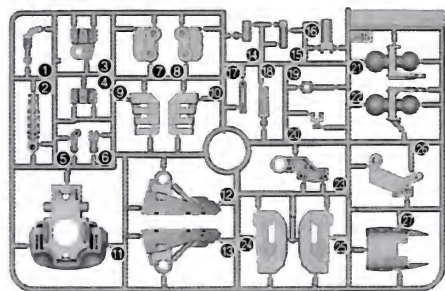
Dパーツ（スチロール樹脂：PS）



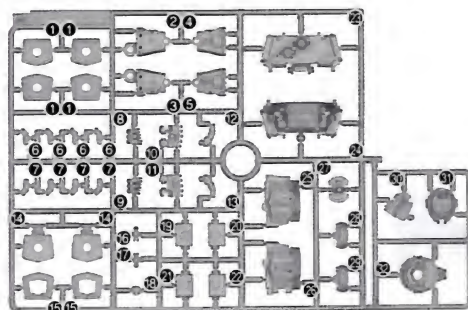
Eパーツ（×2）
（スチロール樹脂：PS）



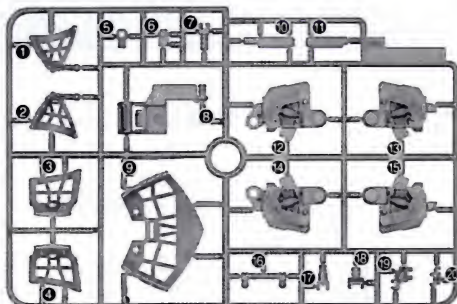
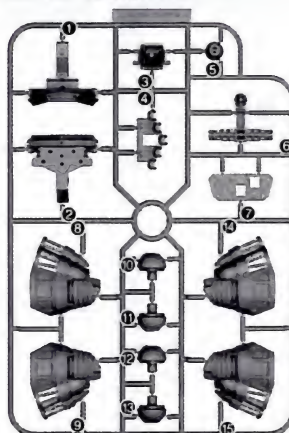
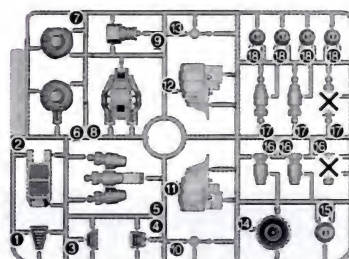
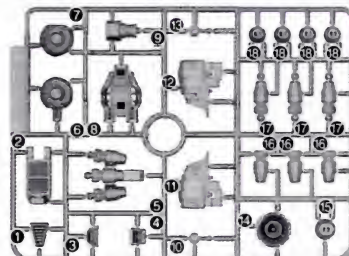
Fパーツ（×2）
（ABS樹脂：ABS）



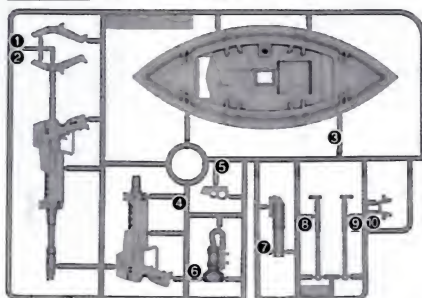
Gパーツ（ABS樹脂：ABS）



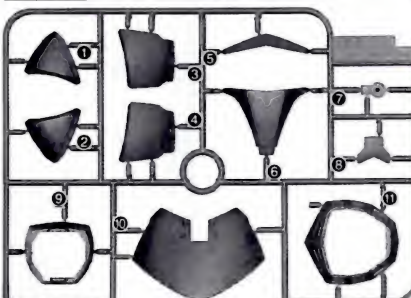
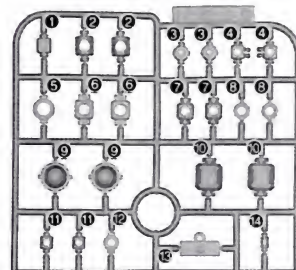
Hパーツ (ABS樹脂: ABS)

Iパーツ
(スチロール樹脂: PS)Jパーツ (×2)
(スチロール樹脂: PS)

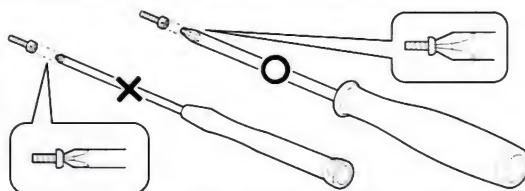
Kパーツ (スチロール樹脂: PS)



Lパーツ (スチロール樹脂: PS)

〈PC-201〉
(ポリエチレン: PE)

※ビスに合ったドライバーを
ご使用ください。サイズの
合わないドライバーを使用
されますとビスを破損する
場合があります。



マーキングシール.....1枚
ガンダムデカール.....1枚
ビス.....1本

〈お買い上げのお客様へ〉部品をこわしたり、なくした時は、「部品注文カード」に必要な部品の記号/番号/数量を はっきり書いて切り取り、郵便局で定額小為替をお買い求めいただき、封書(裏面に必ず、お客様のお名前、年齢、ご住所を明記してください。)にて下記までお申し込みください。なお、やむをえず部品注文カードをご使用できない場合には発送が遅れる場合がございます。ご了承ください。又、部品注文カードはコピー(拡大含む)での使用も可能です。代金は、料金表通りです。定額小為替は無記入(白紙)で同封してください。なお、部品の形状・重量で郵送料に過不足が生じるときがあります。部品発送の際に表記額を超える時は不足分を請求、表記額以下の時には残額をお返しいたします。また、在庫がない場合には注文をお断りする場合がございます。その際は、お送り頂きました代金(為替)を返送いたします。但し、それ以外に掛かった手数料等は、お客様負担になりますので、ご了承の程、何卒よろしくお願い致します。もし部品に不良品がございましたら、その部品を切り取り、商品名を書いて、下記まで封書にてお送りください。良品と交換させていただきます。(ご記入頂きました個人情報につきましては、商品・部品の発送及び情報の提供以外には使用いたしません。部品注文の方法は、HPでもご紹介しております。詳しくは<http://bandai-hobby.net>より▶お客様へ■部品注文「部品が必要になったらこちらのページをご覧ください。」の所をクリックしてください。

■申し込み先 (株)バンダイ静岡相談センター

〒420-8681 静岡県静岡市葵区長沼500-12 TEL 054-208-7520

《料金表》●部品代、送料は切り取った1個の料金です。

部品番号	取扱説明書	デカール類	その他
部品代	150円	各40円	各40円
郵送料	200円	80円	120円

・電話受付時間 月～金曜日
(祝日を除く) 10時～16時
・電話番号はよく確かめて間違いないようにご注意ください。

FOR USE IN JAPAN ONLY.

部品注文カード

0151918

1/100SCALE MGシリーズ
MS-14A 量産型ゲルググ Ver.2.0

必要な部品の記号・番号・数量をかく

●注文された理由(○で囲む) (こわした/なくした)

・日中ご連絡可能な電話番号・年齢
() () ()

R2001366

2008.04/T・ON

'08.04

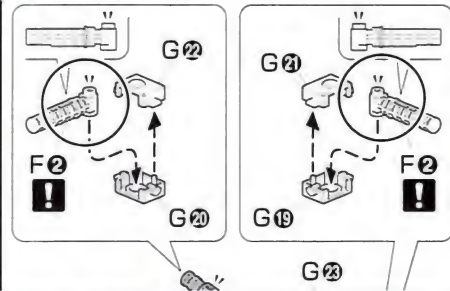
※コピー使用可

組み立て前の基本説明

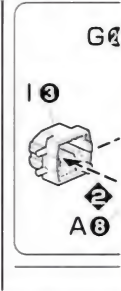
部品の向きに注意してください

※組み立て図中にVのついている部品は、形状や向きに注意して組み立ててください。

1 (胸部の組立) (1) BODY UNIT

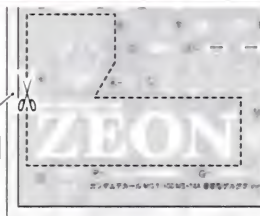


1 (2)



ガンダムデカールの貼りかた

①ガンダムデカールは、転写するマークを保護シートと一緒にマークより大きめに切り出してください。



保護シート

②保護シートをはがし、貼る位置を決めてから、ずれないようにセロハンテープ等で固定し、マークの上からボールペン等の先端の丸い物でこすりつけて定着させます。

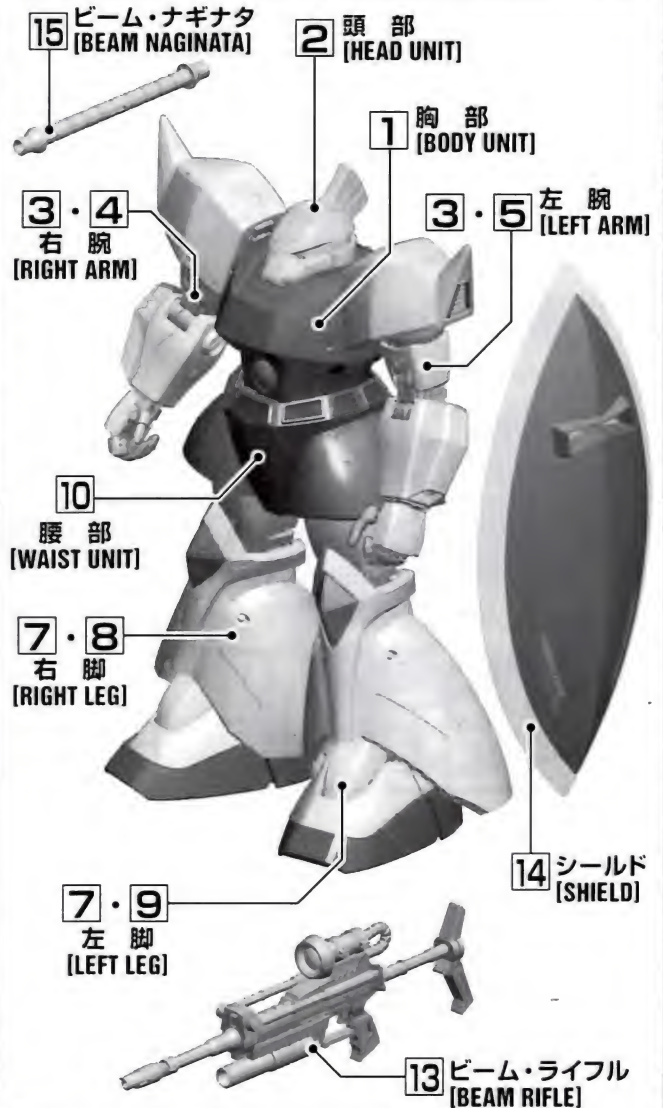


③シートを静かにはがし、デカールが定着していない部分が残った場合はシートを元に戻し、その部分を再度こすりつけます。



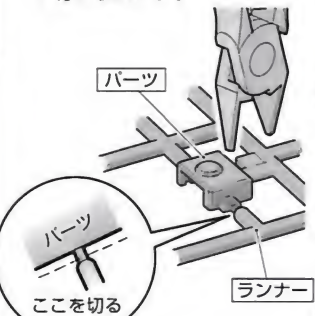
※デカールを貼り間違えた場合は、セロハンテープ等ではがしてください。

説明書をよく読んで完成させましょう

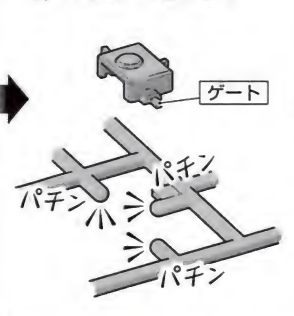


パーツの切り取りかた

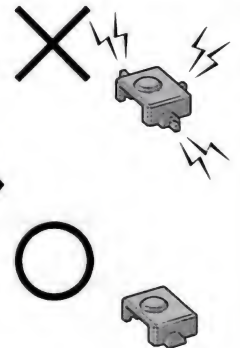
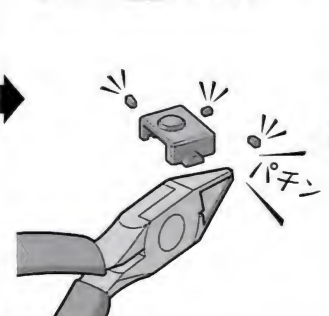
①まず、パーツから少し離れた位置にニッパーの刃を入れて切り取ります。



②パーツを切り離して持ちやすくしたところでゲート跡の処理に入ります。



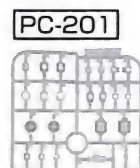
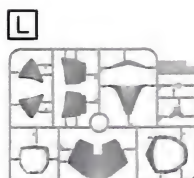
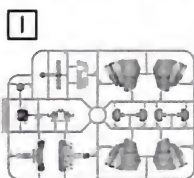
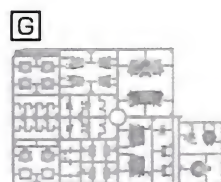
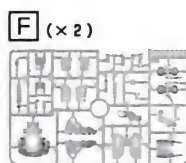
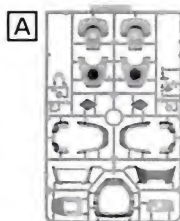
③ニッパーの刃をパーツに密着させてゲートを切り取れば、きれいに仕上がります。



1 BODY UNIT

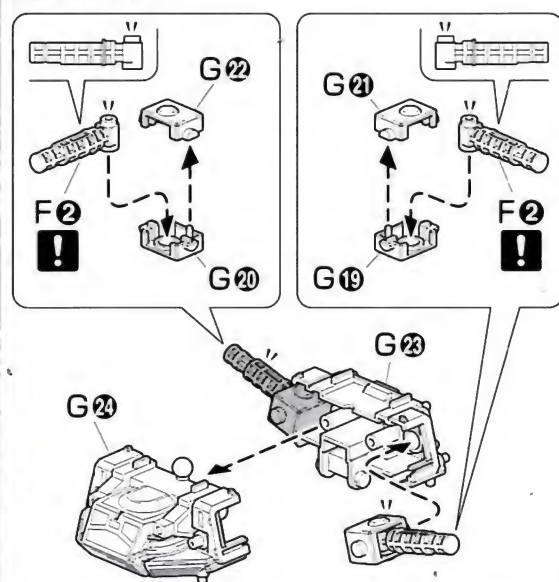


・組立**1**で使用するパーツ



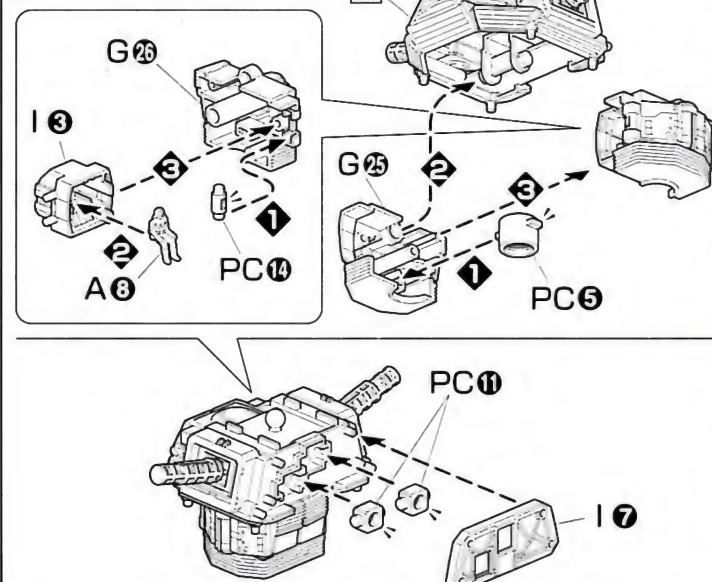
1 (胸部の組立)

(1) BODY UNIT



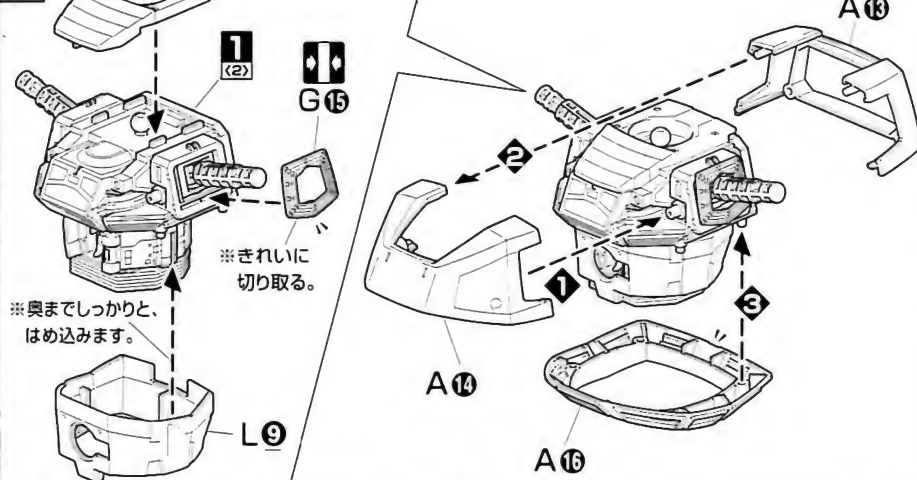
1

(2)



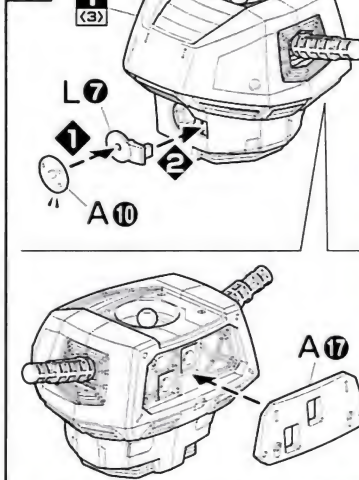
1

(3)



1

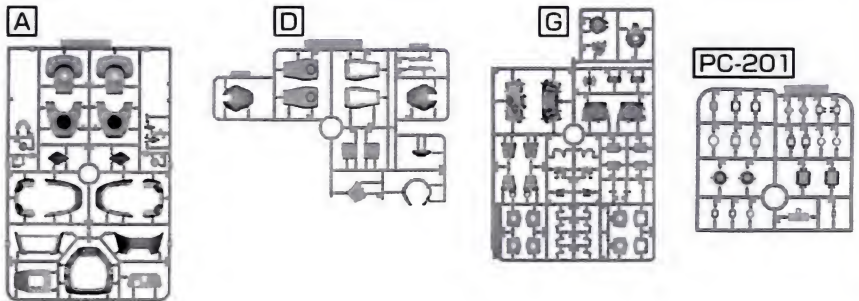
(4)



2 HEAD UNIT

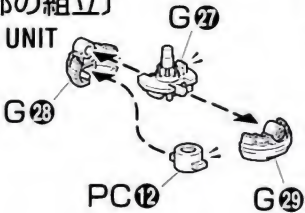


・組立2で使用するパーツ

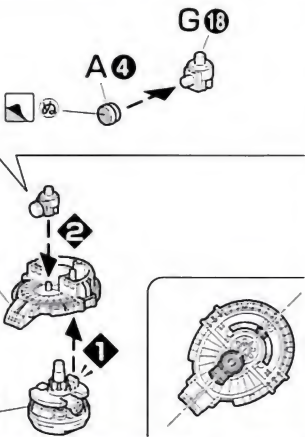


・マーキングシール

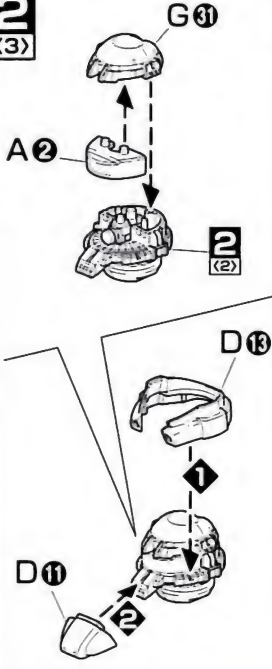
2 (1) HEAD UNIT



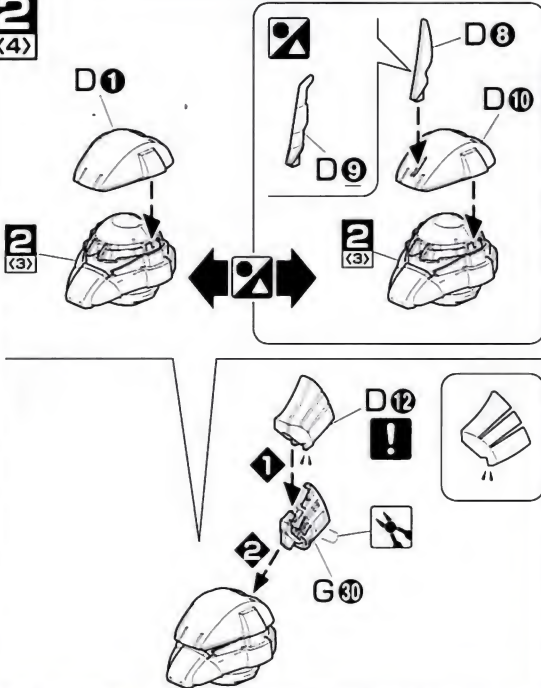
2 (2)



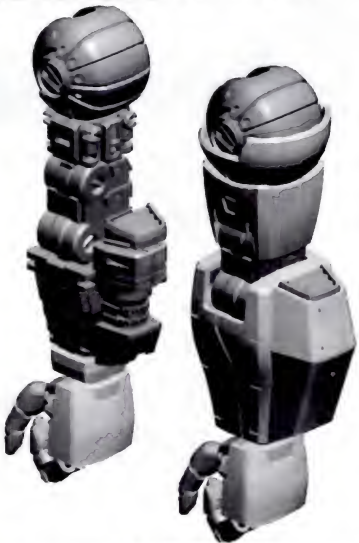
2 (3)



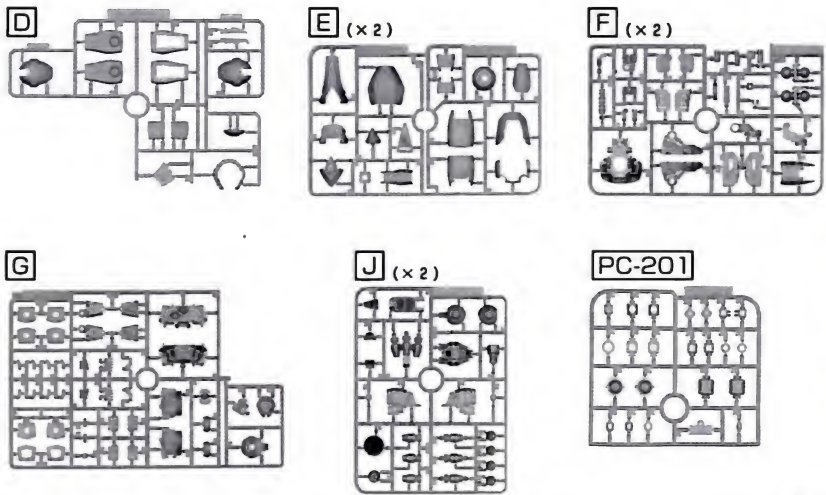
2 (4)



3 4 5 6 ARM UNIT

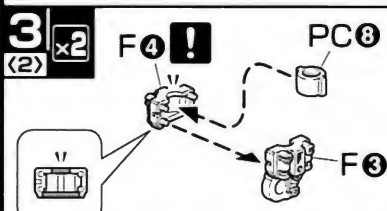
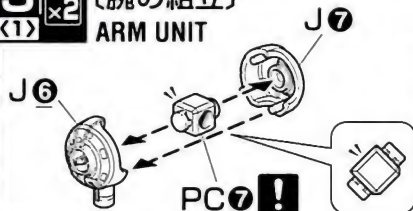


・組立3・4・5・6で使用するパーツ

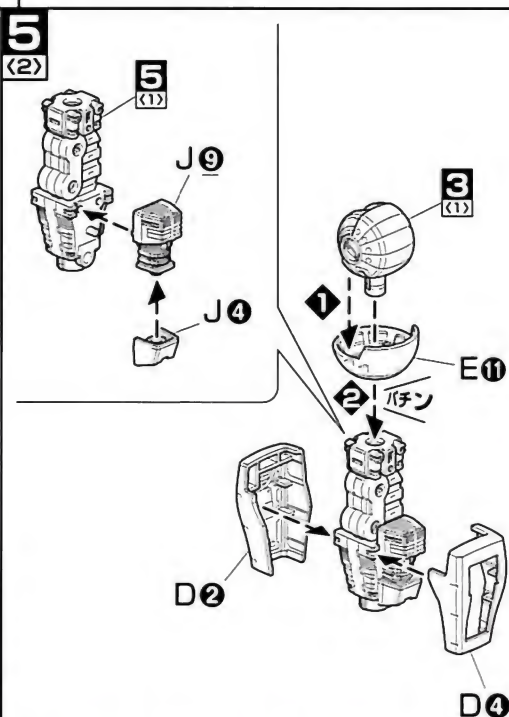
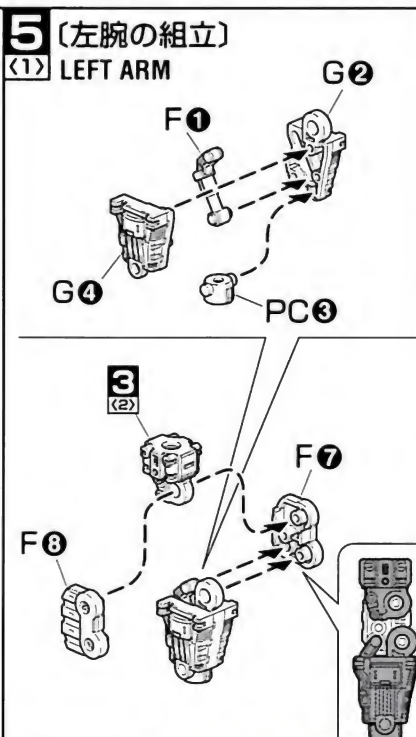
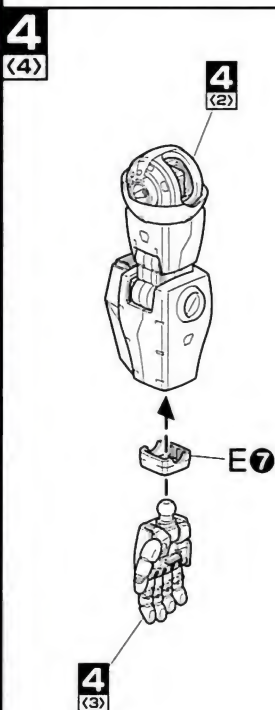
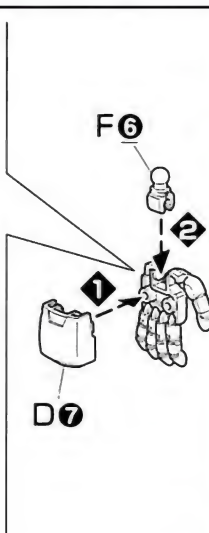
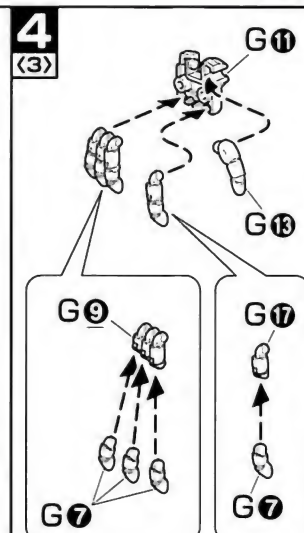
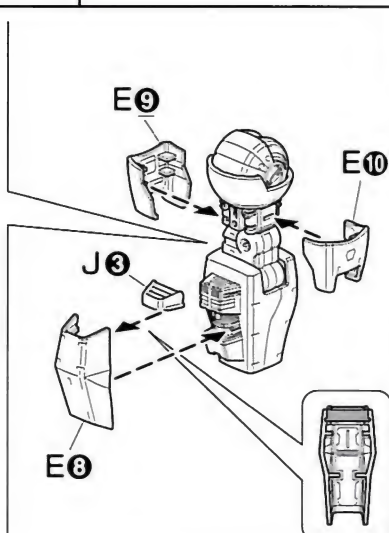
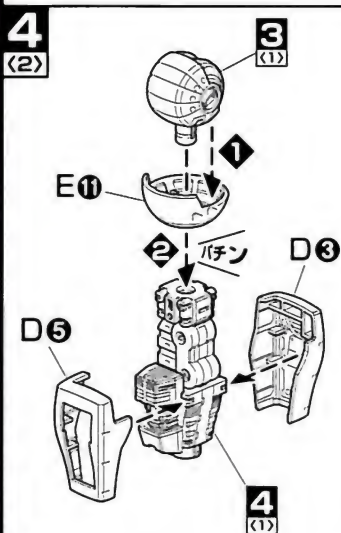
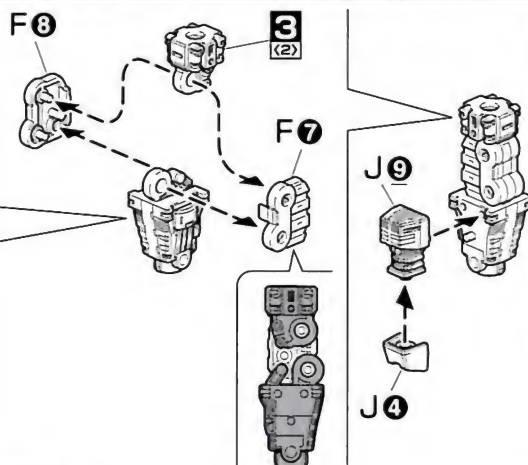
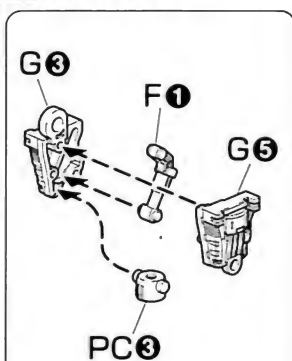


・ビス

3 (腕の組立) (1) ARM UNIT



4 (右腕の組立) (1) RIGHT ARM



MS Tracks in U.C.0079

Battle of A Baoa Qu (ア・バオア・クーの戦い)

U.C. (宇宙世紀) 0079年12月31日、一年戦争は最終局面を迎えようとしていた。公国軍が照射したソーラ・レイによって主力のレビル艦隊を喪失した連邦軍は、残存艦隊を再編成し宇宙要塞ア・バオア・クーへと進撃を開始。総帥ギレン・ザビの命令下、ア・バオア・クーの港湾から、あるいは艦艇のハッチから、空母のカタバルトから出撃した無数のMSがそれを迎撃する。ザクが、リック・ドムが、そしてゲルググが、要塞の周囲を埋め尽くさんばかりに展開する。「ククク……圧倒的じゃないか、我が軍は」キシリアのグワジンが入港し、入れ替わるようにジオングが出撃する。グラナダから出撃してきた艦の数合わないことをいぶかしみながらも、ギレンは臨機応変に命令をくだす。戦況はさらに熾烈を極め、無数の光芒が閃いては消えていった。新たに出現した連邦艦隊への対処を済ませ、戦況が有利に展開している事を確認したキシリアは、ギレンの傍らに歩み寄り、銃口を後頭部に押し当てながら父デギンへの仕打ちを糾す。「冗談はよせ……」「意外と……兄上も甘いようで」キシリアはギレンを父殺しの咎で自ら裁き、混乱に乗じてア・バオア・クーの司令部を掌握する。ところが戦況は一転し、連邦軍は傲然と攻め寄せる。「しかし、ゲルググ、ドムの動きが目立たないのはどういう訳だ?」「はっ、学徒動員のパイロットが多いようで……」機転を利かせて補佐に付いたトワニングは状況を奏上するが、キシリアは冷徹に現状を見極めていた。連邦軍は続々とア・バオア・クーに上陸し始め、ジオングの撃沈を確認したキシリアはトワニングを呼んで耳打ちする。「私の脱出15分後にここを降伏させるがいい」「しかし今となっては脱出こそ至難の技かと……」すでに戦闘はア・バオア・クー内で展開していた。ドロス、ドロワの両空母はすでに喪われ、ア・バオア・クーは今まさに陥落しようとしていた。ゲルググやザクだった鉄塊が、坑道のあちこちで爆煙に身悶えていた……。



PAINTING (塗装)

※よりリアルに仕上げたい方は、下の基本色をご覧ください。

※塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

MS-14A 量産型ゲルググ Ver.2.0 指定色

腕、脚などの塗装色
ニュートラルグレー (80%) + ホワイト (15%)
+ グリーン (5%) + ブラウン (少量)

胴などの塗装色
グリーン (70%) + ホワイト (15%)
+ ブラック (10%) + ブラウン (5%)

つま先などの塗装色
ミッドナイトブルー (100%)

シールド表の塗装色
インディブルー (45%) + ホワイト (30%)
+ レッド (15%) + ブラック (10%)

シールド裏などの塗装色
インディブルー (40%) + ホワイト (25%)
+ ブラック (25%) + レッド (10%)

シールドフチの塗装色
イエロー (45%) + ホワイト (30%)
+ ウッドブラウン (25%)

ナギナタのグリップ部の塗装色
イエロー (90%)
+ カーキグリーン (5%) + ブラウン (5%)

コクピットハッチの塗装色
ニュートラルグレー (55%) + イエローグリーン (30%)
+ デイトナグリーン (10%) + ホワイト (5%)

モノアイなどの塗装色
蛍光ピンク (100%)

内部メカの塗装色 (ABSパーツ以外)
ニュートラルグレー (90%)
+ ブラック (10%)

●ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はお勧めできません。※カラー配合は参考値であり、写真とカラーガイドの色は異なる場合があります。

パイロット

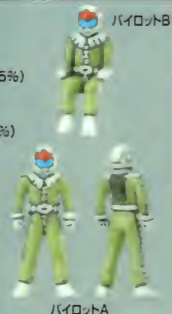
パイロット本体の塗装色
ホワイト (55%) + イエローグリーン (35%)
+ ブラック (10%)

ヘルメットなどの塗装色
ホワイト (90%) + イエローグリーン (5%)
+ ブラック (5%)

バイザーの塗装色
スカイブルー (100%)

ヘルメット顔部の塗装色
モンテレッド (100%)

ランドセルの塗装色
ミディアムブルー (100%)



ワンポイントステップ ~One point step~

スミ入れしてみよう!

ガンダムマーカー/スミ入れ用(別売り)などを使用して、キットのシ影りを塗装することで、立体感、リアル感が増します。スミ入れるだけで見違えるような仕上がりになります。



[before]



[after]

MS-14A GELGOOG MECHANISM

ゲルググの開発にあたってはザクの設計思想を受け継いでおり、量産型と言えどもそのスペックは先行型とほぼ変わりはなく非常に高い完成度の機体となっている。



▲ボディ背面をフラット化することで、オプション装備の換装を容易にしている。



▲腰部スカート・アーマーに配されたスラスターは、大気圏内での運用も考慮に入れハイブリット化が図られている。

▶ OGR系の機動力を向上させたスラスター・ユニットは、空間戦闘能力の大幅アップを実現している。



MODEL NUMBER : MS-14A

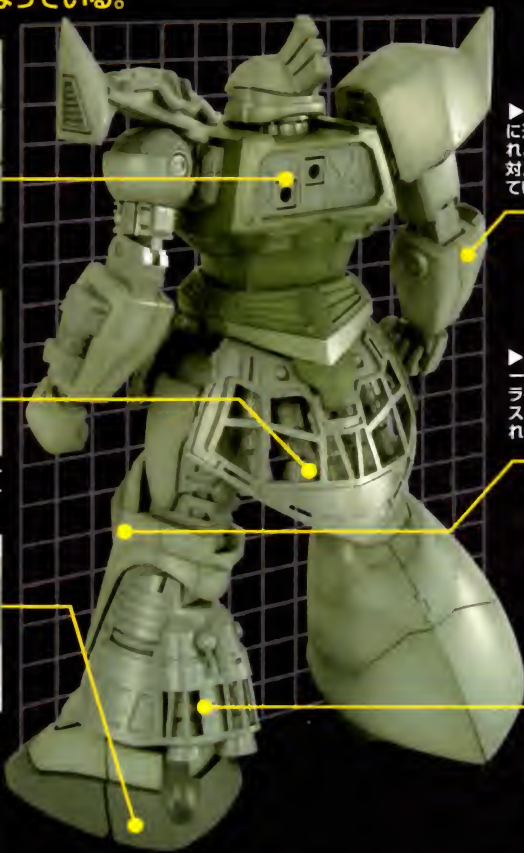
Height : 19.2m

Weight : 42.1t

Full weight : 73.3t

Generator output : 1,440kw

Armor materials : super hard steel alloy



▶ 指揮官機は頭部にブレードアンテナが装備されており、通信系のモジュールも強化されている。

Normal type

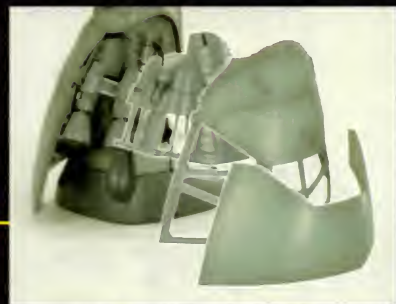
Stabilizer type



▶ アームユニットは人体に近い可動構造が与えられ、あらゆる武装・状況に対応できるよう設計されている。



▶ 膝アーマー部は、インナーフレームに連動したスライド機構が組み込まれ、スムーズな可動が実現されている。



▲モノコック構造とユニット化されたパーツ構成により汎用性、メンテナンス性に優れ、多重構造による装甲の強化が図られている。

Weapons MS-14A GELGOOG

Beam Naginata

Beam Naginata
Sword Type



Beam Rifle
Grenade Type

Beam Rifle

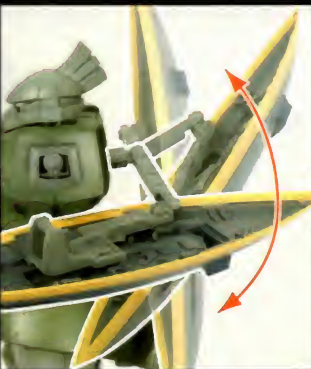
▲ビーム・ナギナタ、ビーム・ライフルはそれぞれソードタイプ、グレネードタイプに差し換えによる選択が可能。



▲ビーム・ナギナタは機体各部、シールド裏面のウェポンラッチにマウントが可能。

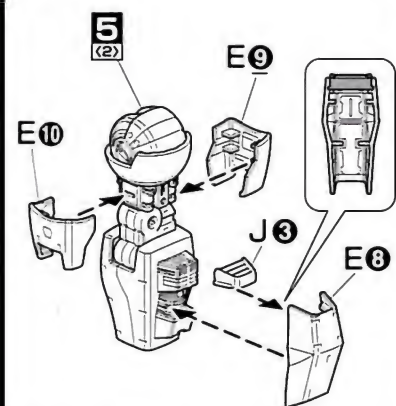


Shield

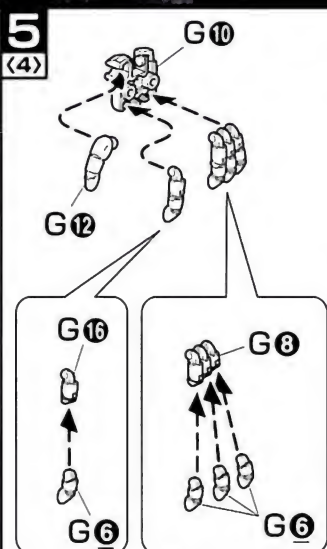


▲機体背面からマウントアームが展開し、前面にスライドすることにより「引き出し」のアクションを実現。

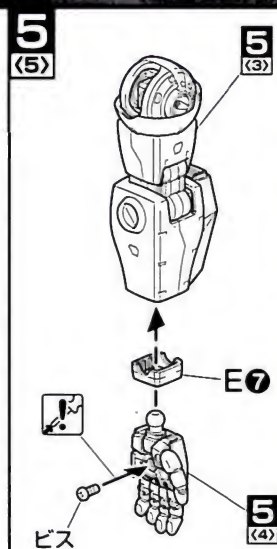
5
(3)



5
(4)



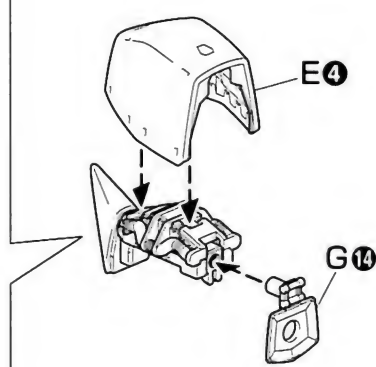
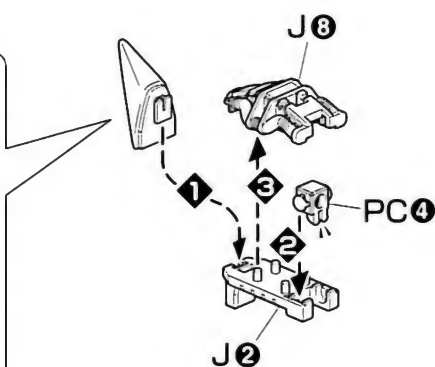
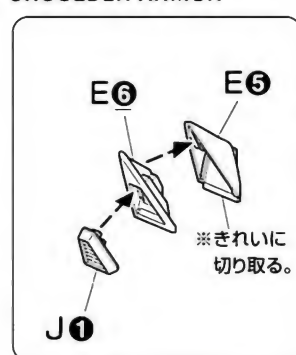
5
(5)



6
(1)

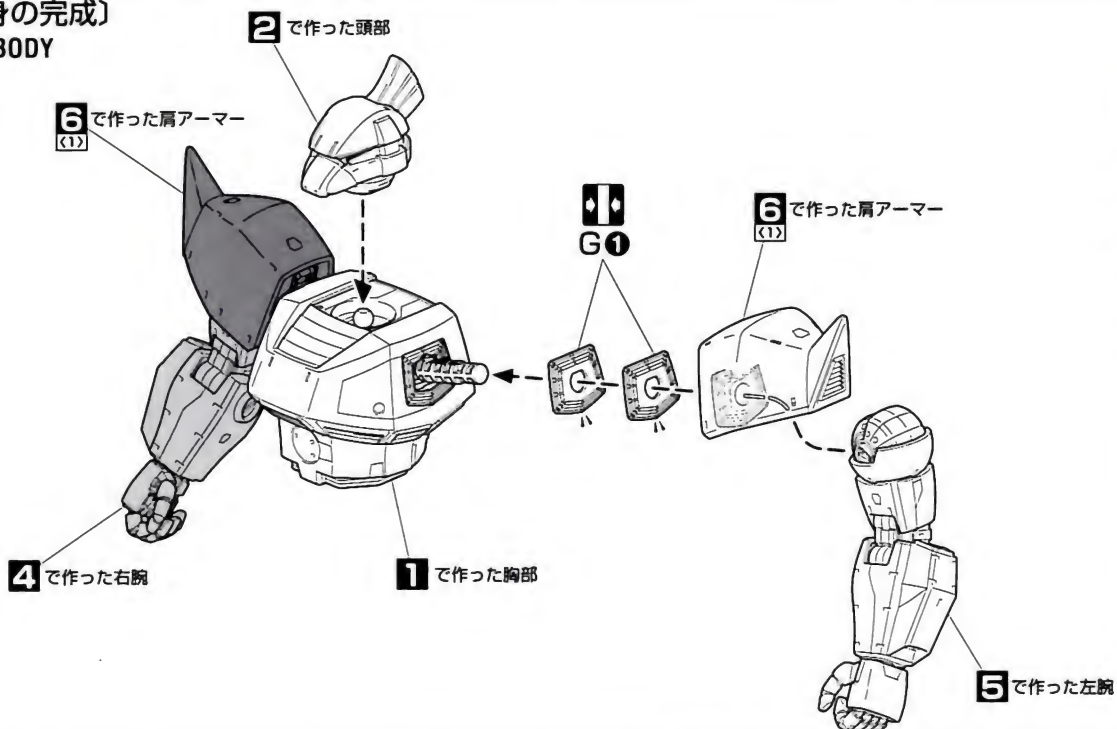
x2

〔肩アーマーの組立〕
SHOULDER ARMOR



6
(2)

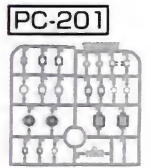
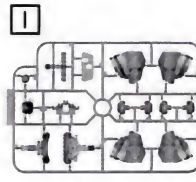
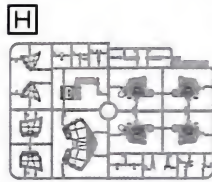
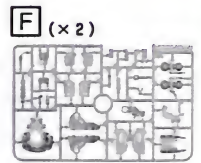
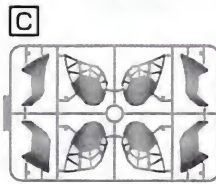
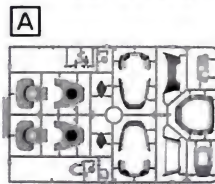
〔上半身の完成〕
UPPER BODY



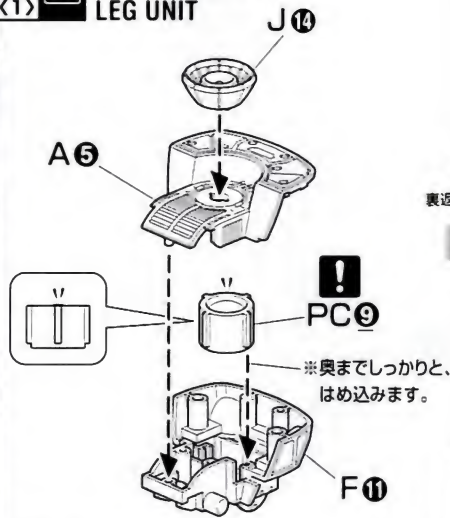
789 LEG UNIT



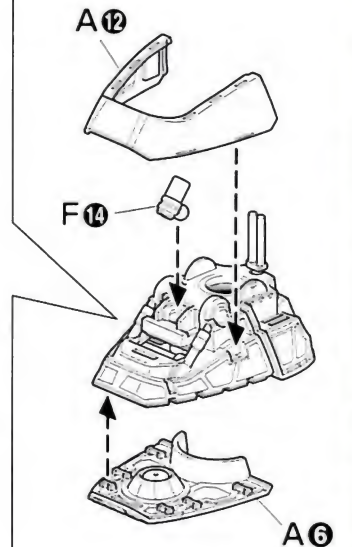
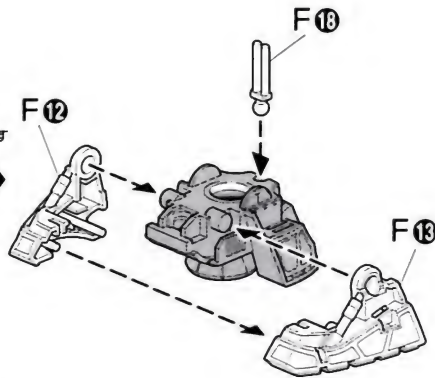
・組立7・8・9で使用するパーツ



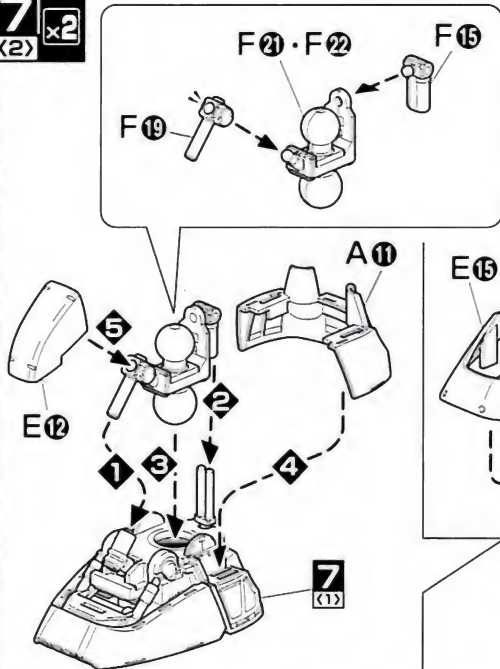
7 (1) x2 (脚部の組立) LEG UNIT



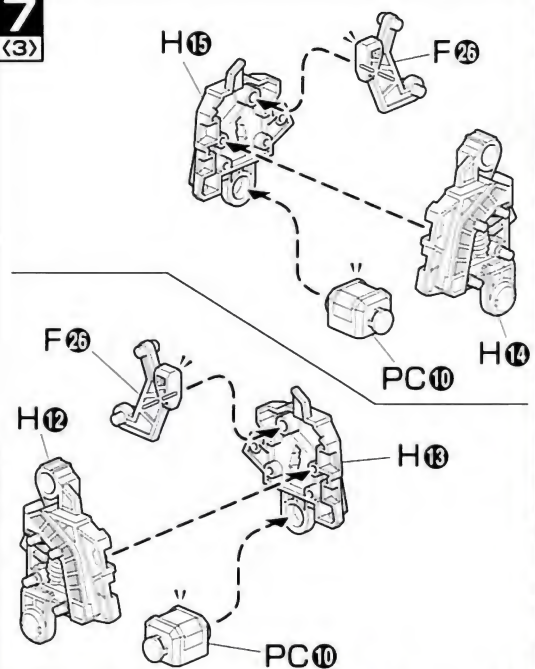
裏返します



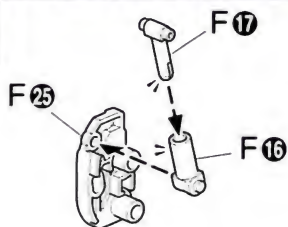
7 (2) x2



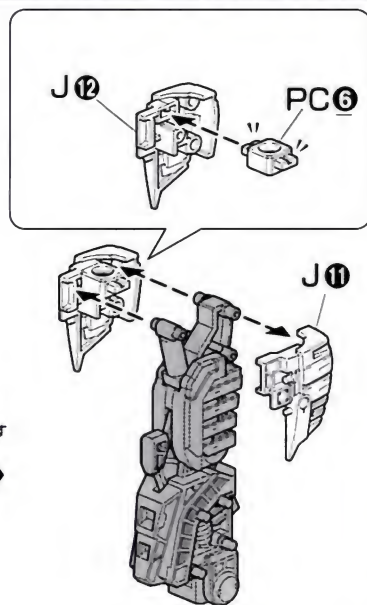
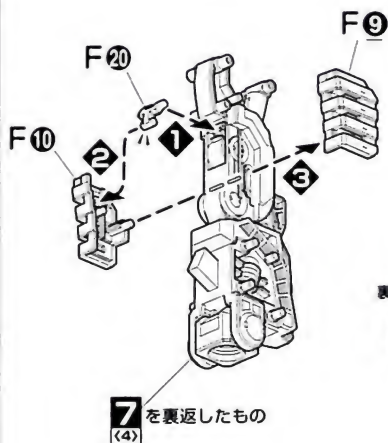
7 (3)



7
(4) x2

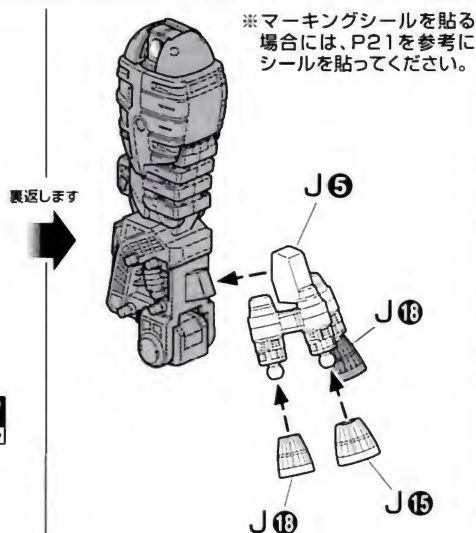
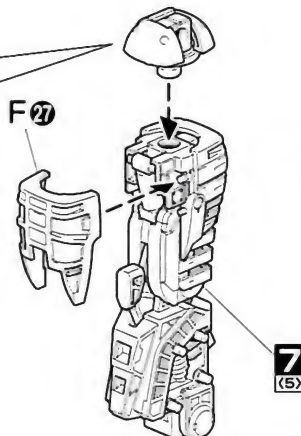
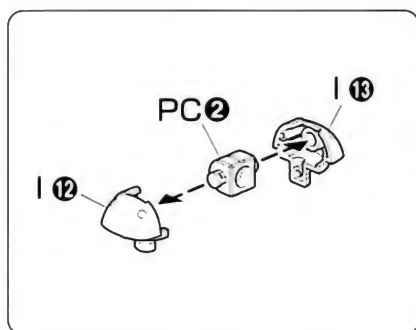


7
(5) x2

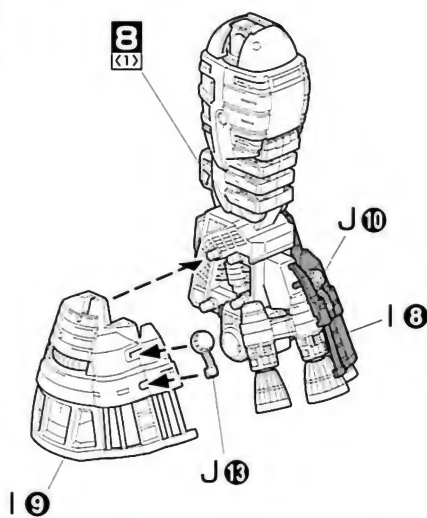


8 〔右足の組立〕

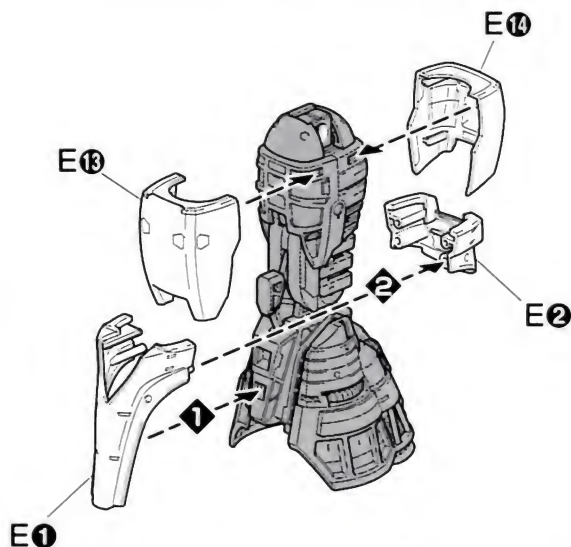
(1) RIGHT LEG



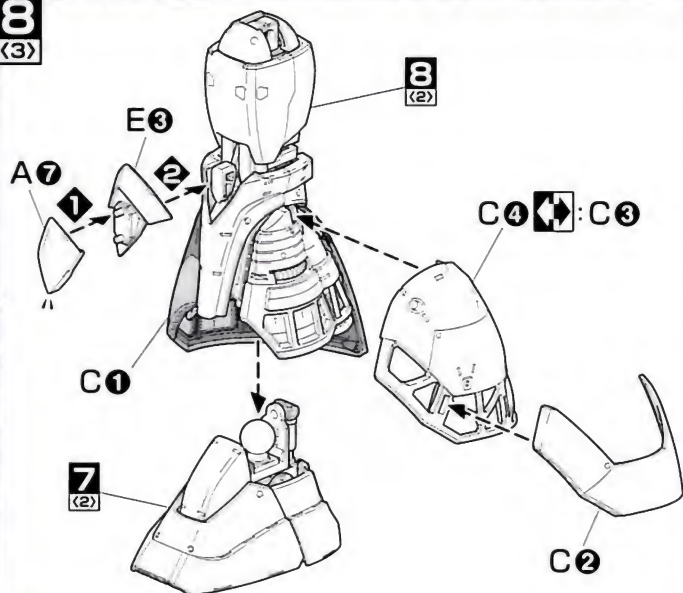
8
(2)



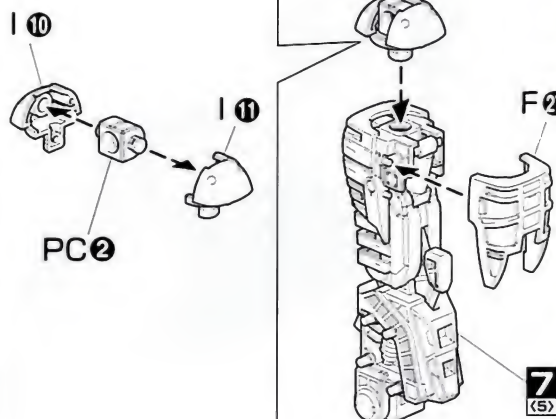
裏返します



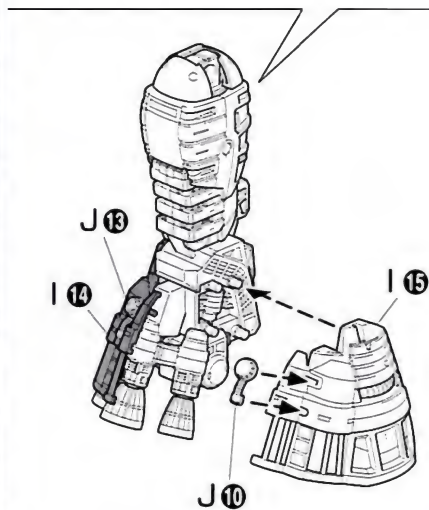
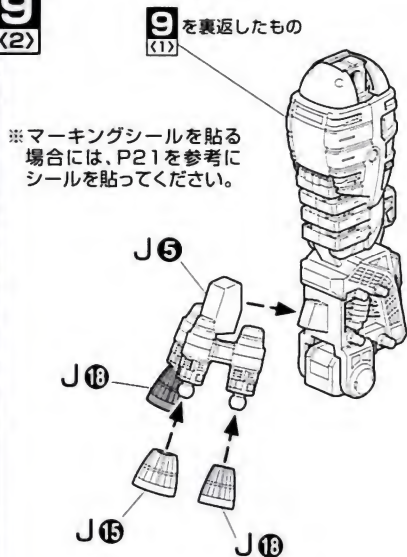
8
(3)



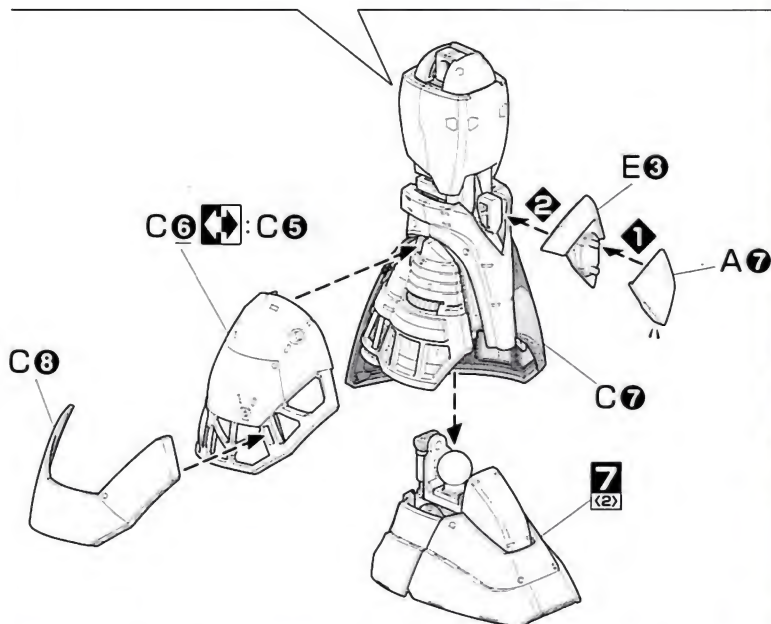
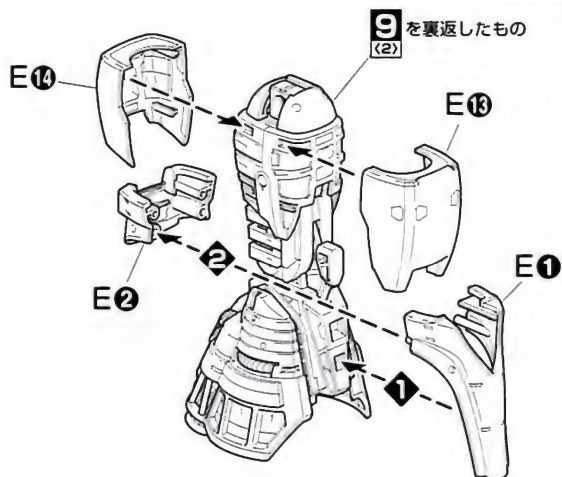
9 (左脚の組立)
(1) LEFT LEG



9
(2)



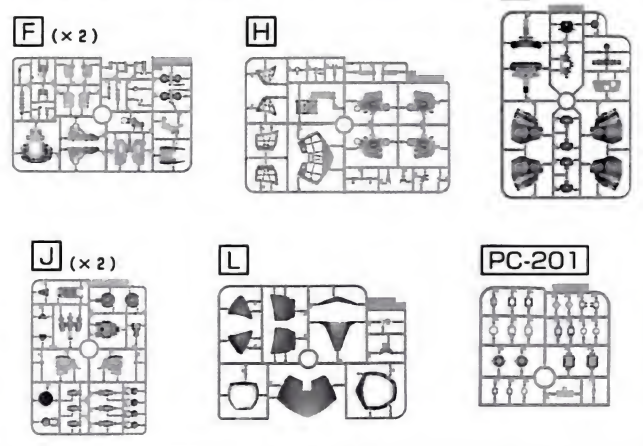
9
(3)



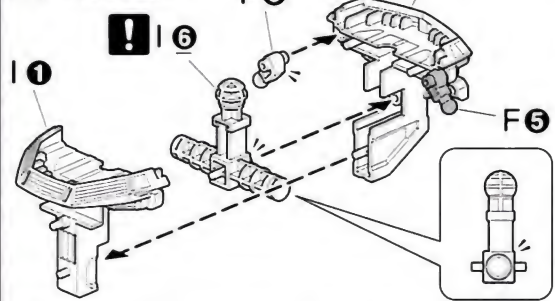
1011 WAIST UNIT



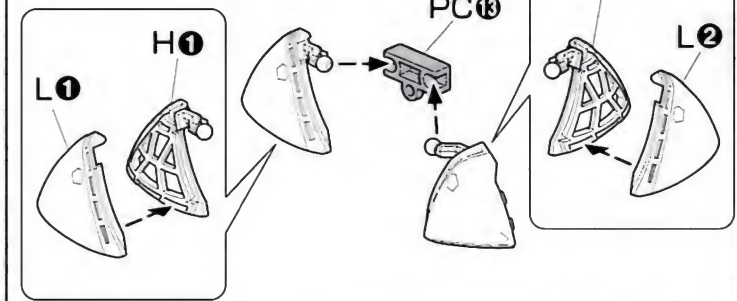
・組立10・11で使用するパーツ



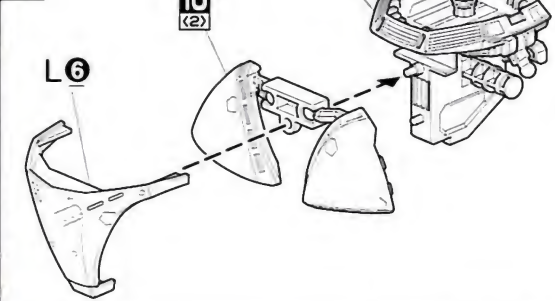
10 (腰部の組立)
(1) WAIST UNIT



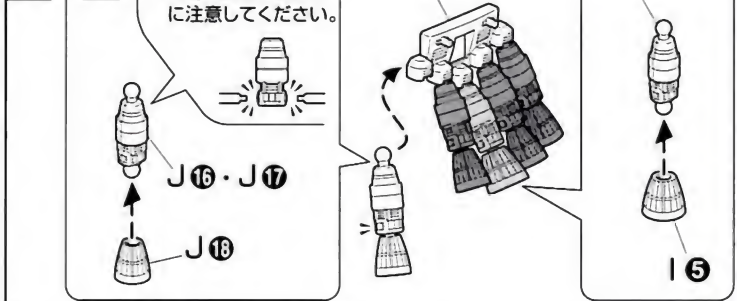
10 (2)



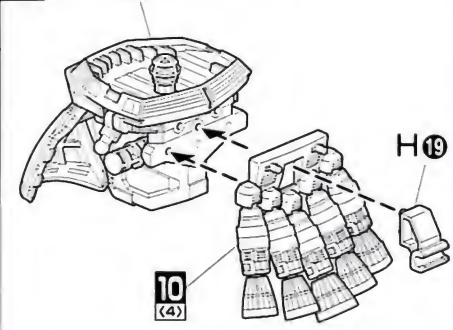
10 (3)



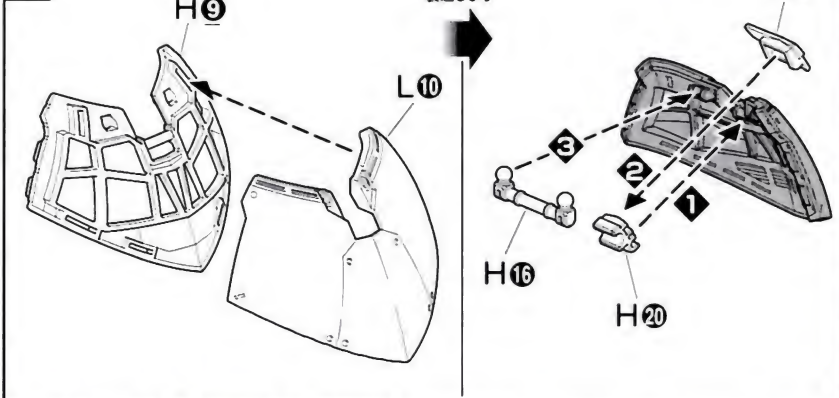
10 (4)



10 (5)



10 (6)



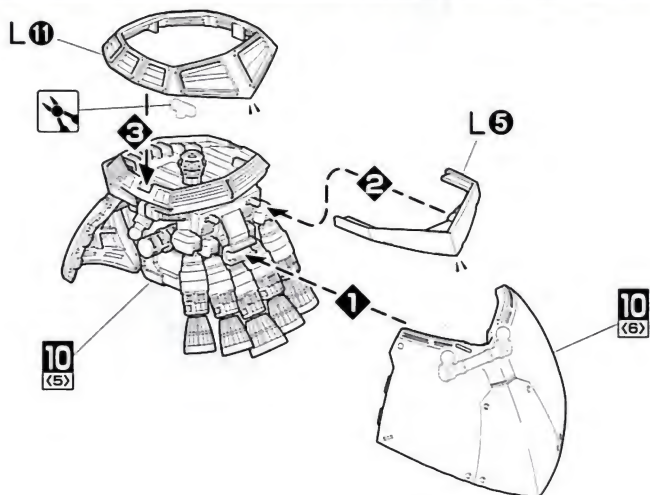
※マーキングシールを貼る場合には、P21を参考にシールを貼ってください。

組立図中の記号説明

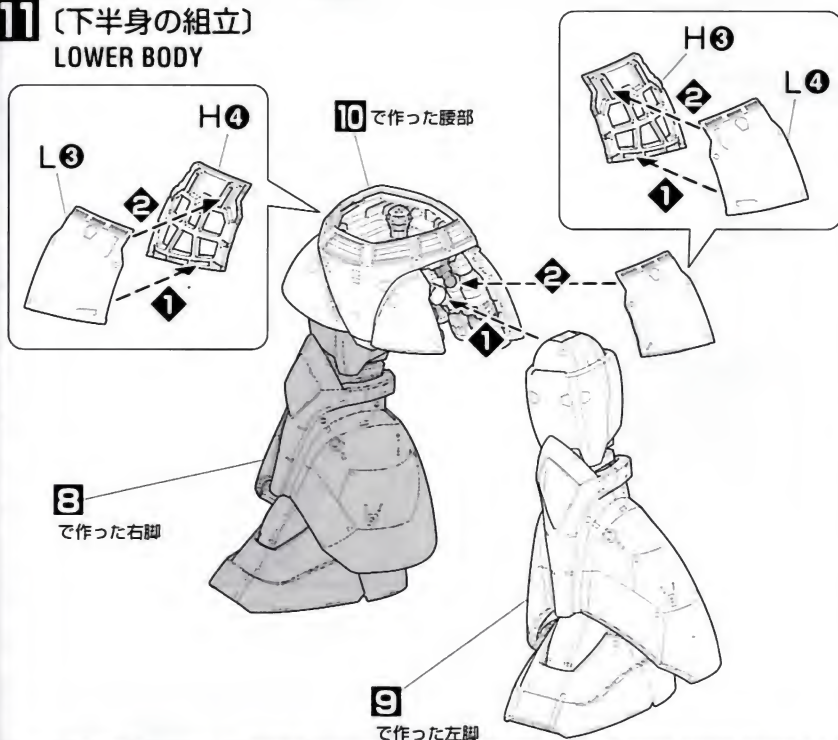
x2 部品を数値の個数作ります

！ 向きに注意して組み立てる

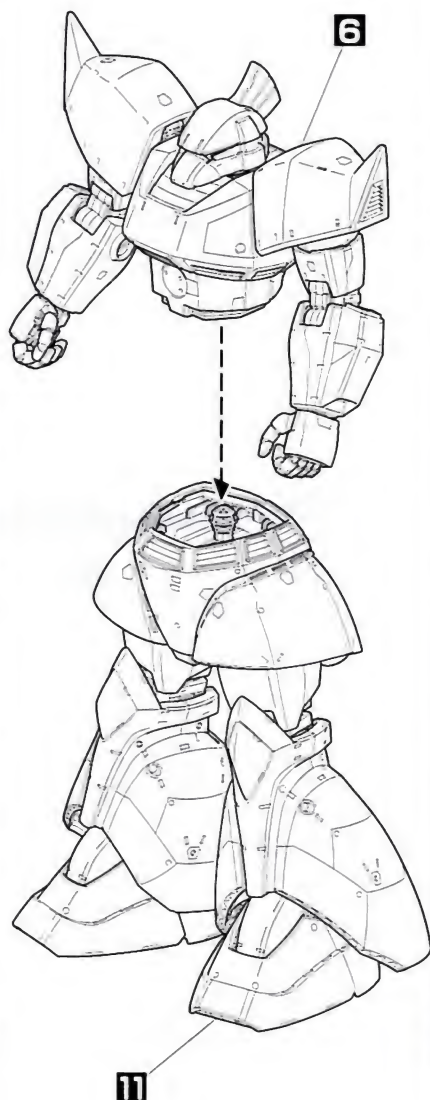
10
(7)



11 (下半身の組立)
LOWER BODY



12 (完成) FINAL ASSEMBLE

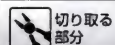
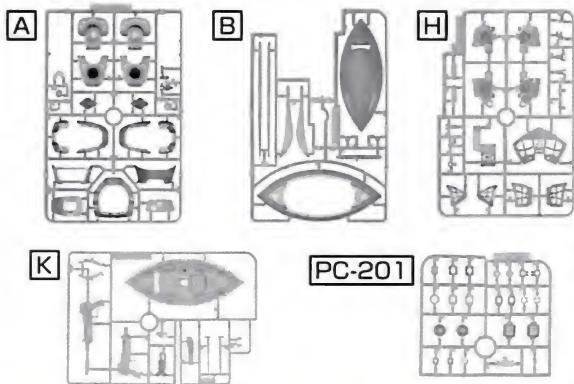


※A9は好きな所に飾ってください。

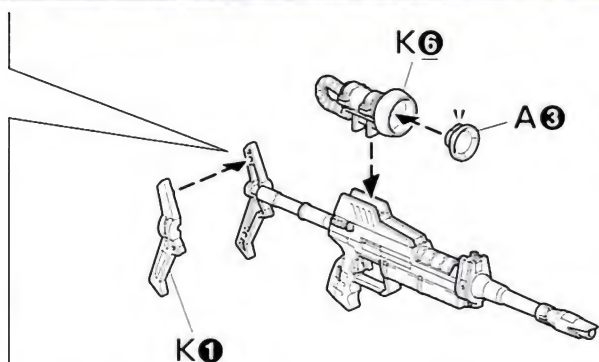
13 14 15 16 19 WEAPONS



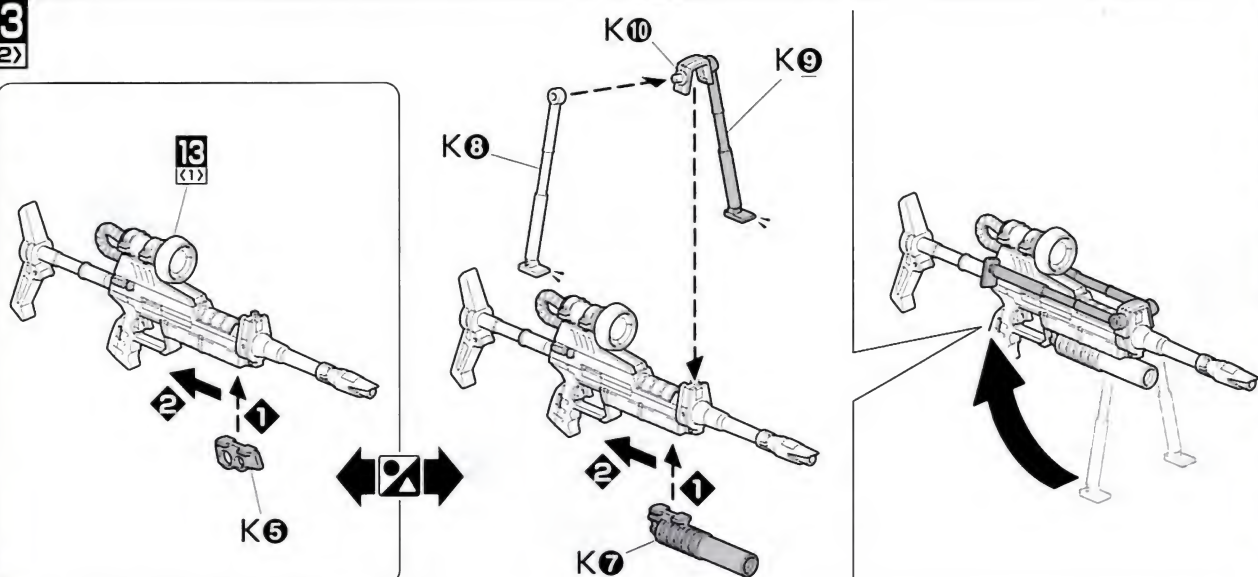
・組立 13・14・15・16・19 で使用するパーツ



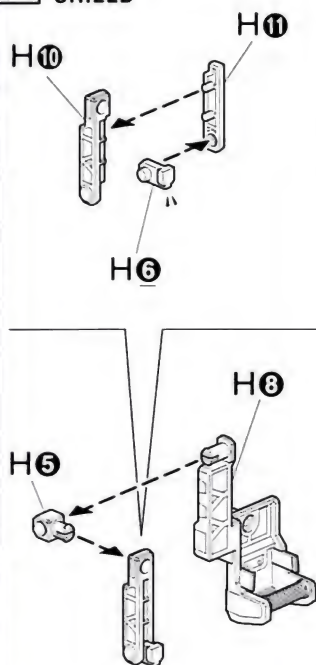
<1> BEAM RIFLE



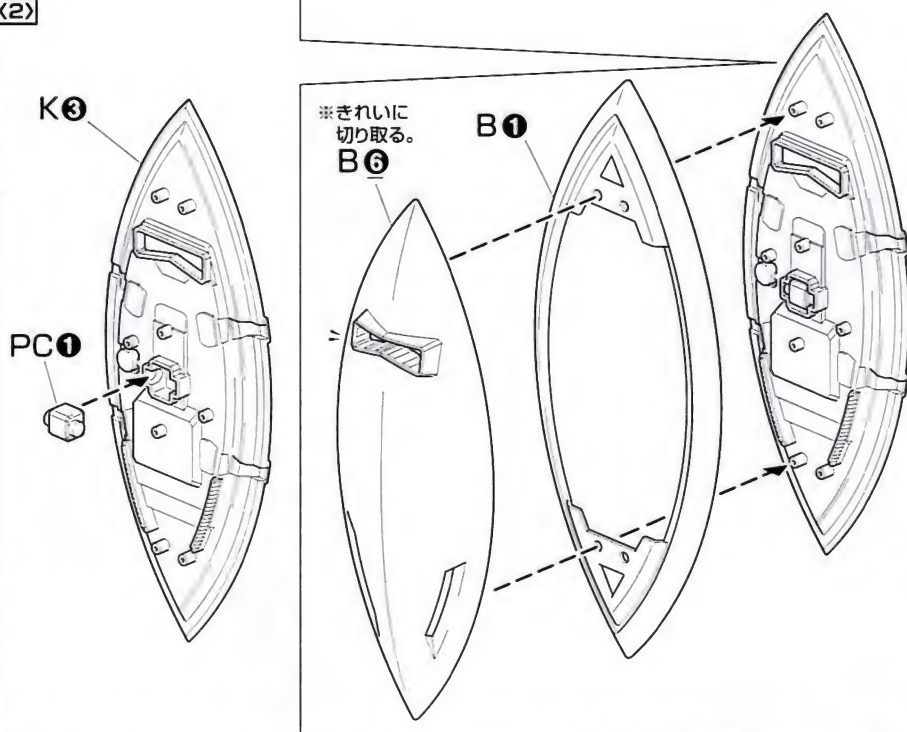
〈2〉



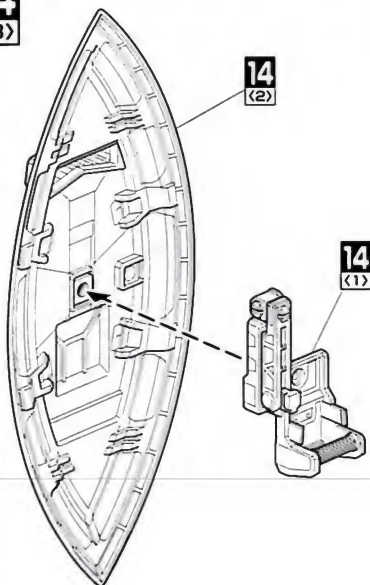
<1> SHIELD



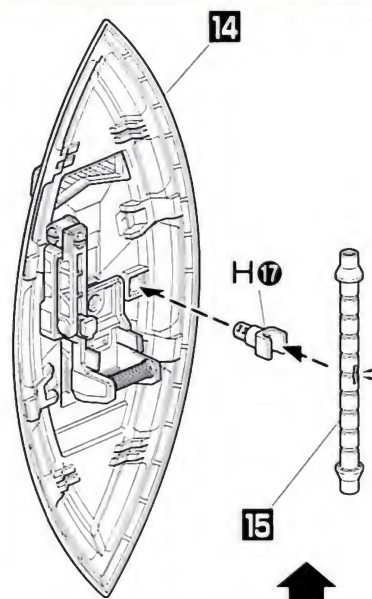
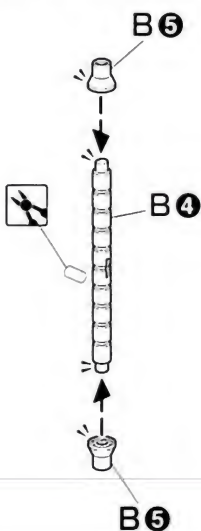
〈2〉



14
(3)

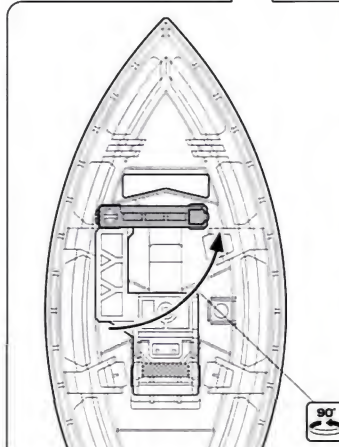
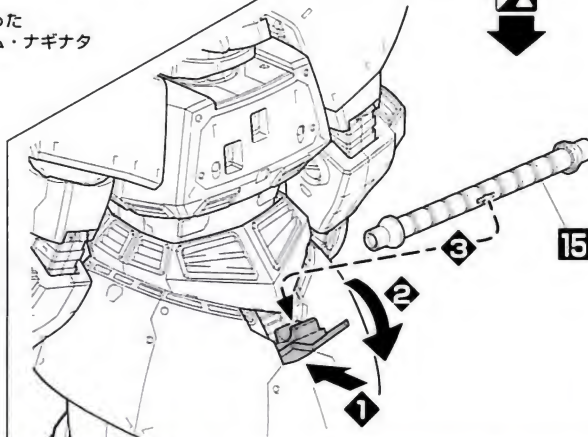
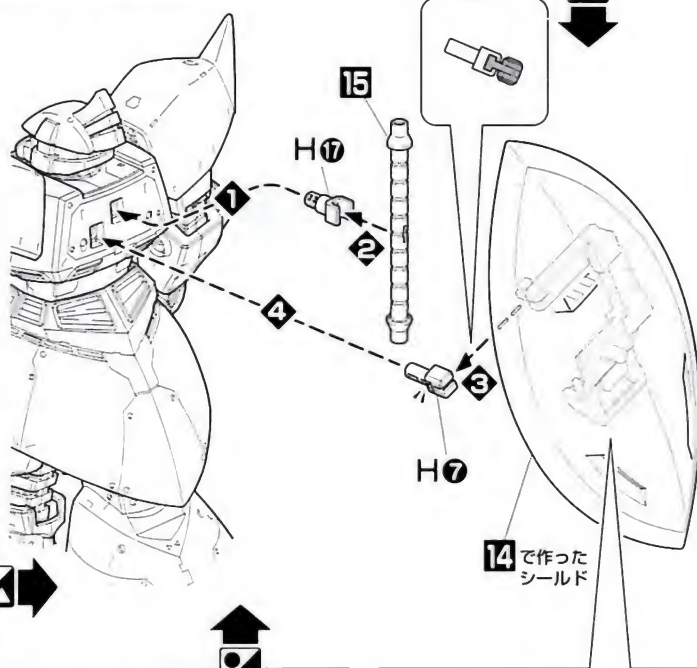
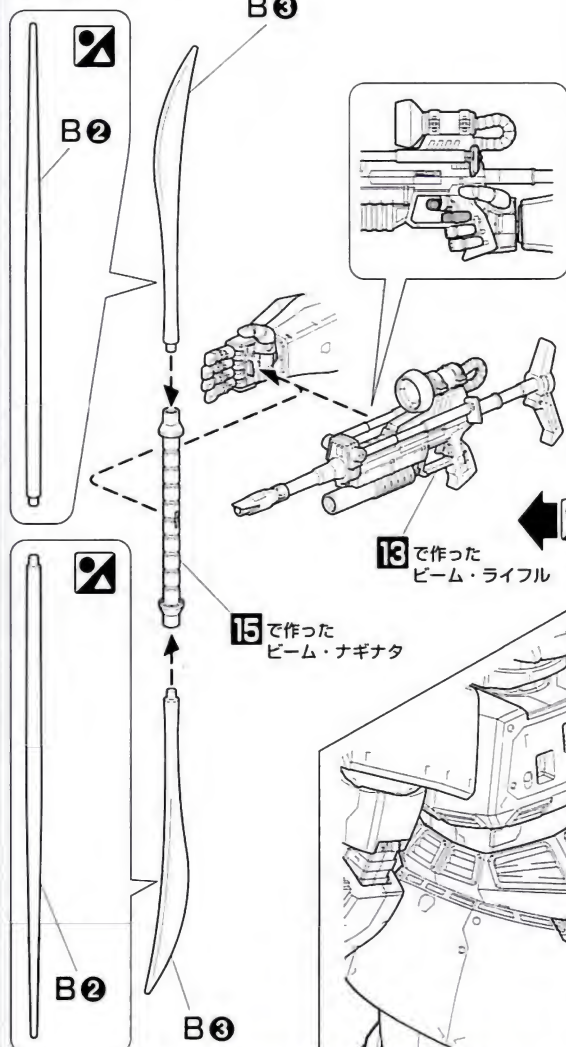


15 (ビーム・ナギナタの組立)
BEAM NAGINATA



16

(両腕に持たせられます)



19

※組立途中の
記号説明

どちらかを選んで
取り付ける

両側に同じパーツを
取り付ける

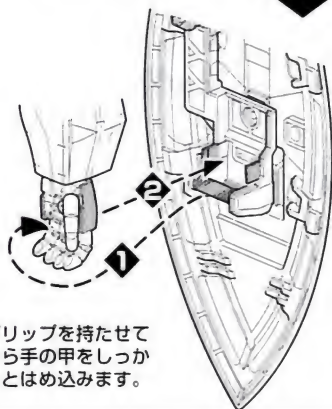
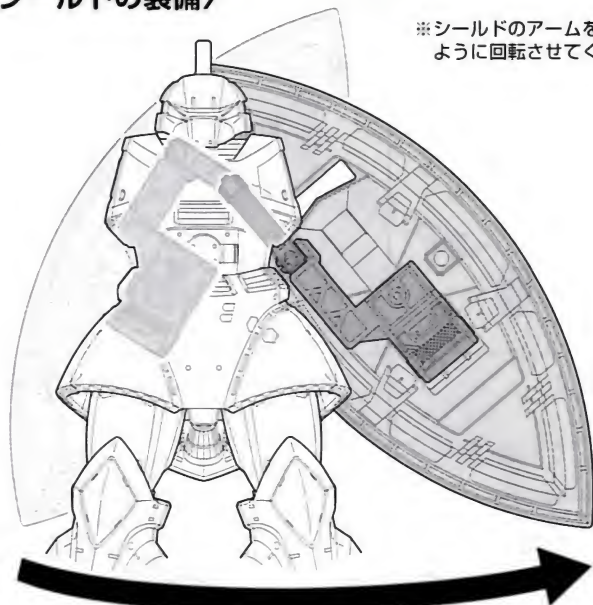
切り取る
部分

90° 数値に合わせて
回転させます。

17 <シールドの装備>

<1>

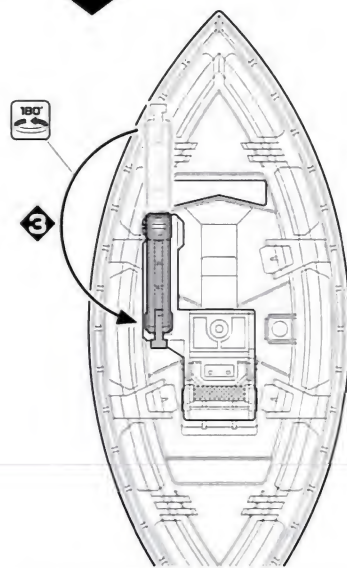
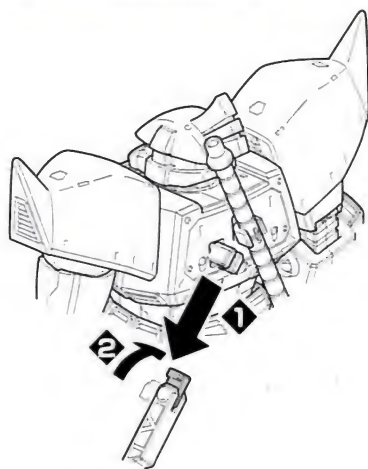
※シールドのアームを図の
ように回転させてください。



※グリップを持たせて
から手の甲をしっかりと
め込みます。



17
<2>

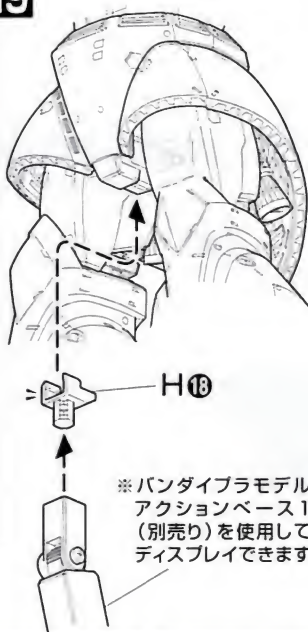


18 <コクピットハッチの開け方>

※胸部がコクピットハッチにかぶっている場合は、
胸部を上に向けてから開けてください。



19



※バンダイプラモデル
アクションベース1
(別売り)を使用して
ディスプレイできます。



Seal

〔シール〕 下の図を見て、マーキングシールやガンダムデカールの貼る位置を確認してください。

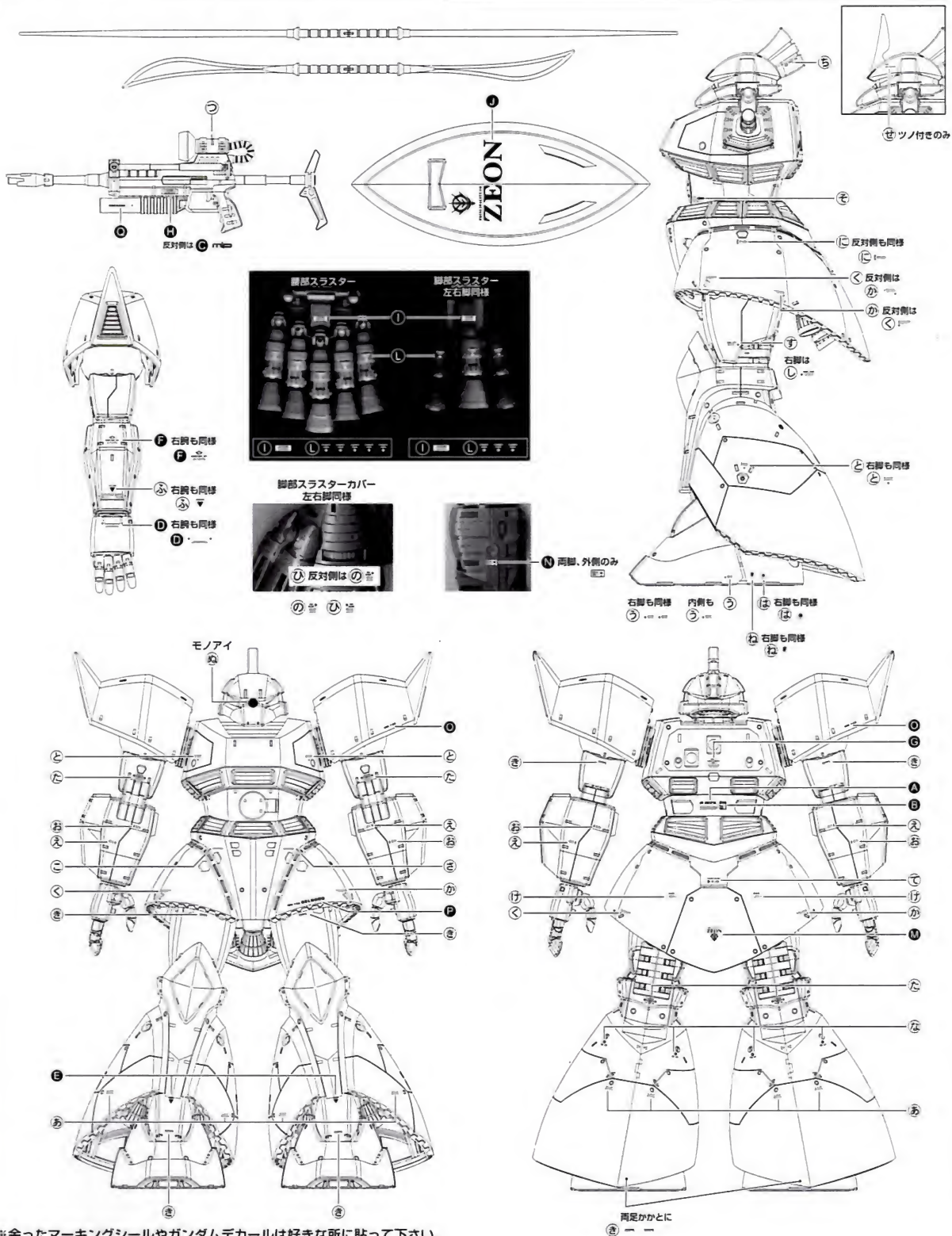
マーキングシールは「ひらがなの黒文字」、ガンダムデカールは「アルファベットの白文字」で表記してあります。

〔例〕 ㊸・・・マーキングシール A・・・ガンダムデカール

〔ガンダムデカールの貼りかた〕

1. 転写するマークを大きめに切り取ります。
2. 転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
3. シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすります。

このマーキングシール及びガンダムデカールはプラモデルオリジナルのもので、貼り指示は一例ですのでイメージに合わせてお貼りください。



※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所に貼って下さい。



ジオン公国軍
汎用モビルスーツ
MS-14A 量産型ゲルググ Ver.2.0
1/100スケール マスターグレードモデル

MS-14A GELGOOG 